令和6年(2024年)
12-1月号
(通巻　215号)
2024年度

市立 いちかわ 自然博物館だより

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

自然博物館収蔵写真

ノハラアザミ
秋の里山歩きでは定番の植物のひとつです。都市化が進む市川市域では珍しい野草になりました。

P1　いきもの写真館
ノハラアザミ

P2/3　肌感覚の気象の記録
肌感覚の12月と1月

P4　花を透明にして観る
ツユクサ

P5　長田谷津のとりたち
ヤマシギ

P6　くすのきのあるバス通りから
キジバトの巣がありました

P6　展示室　飼育生物の話題
隠れる魚の展示

P7　わたしの観察ノート
9～10月 の 記 録

P8　ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。

肌感覚の気象の記録

自然博物館では、日々の自然観察の記録を「自然観察週報」としてまとめ、webサイトで公開しています。自然観察週報には、週単位の気象の記録もあります。数値ではなく、自分たちが体験した気象を文字で書いた記録です。科学的とは言えませんが、生活実感には近い内容になっています。

肌感覚の12月

12月になると、霜、氷、雪といった言葉が登場します。誰の目にも明らかな冬のできごとです。落葉や北風、晴れ上がった青空、カラカラ天気なども同じかもしれません。そうしたできごとを目にすることで、私たちは冬が来たことを受け入れ、ある意味、観念するのかもしれません。

2011年12月の記述は次のようです。

週の後半に雨がしっかり降り、その翌日は晴れ上がった夜空。案の定、翌朝は今季はじめて本格的に霜が下りました。（2011年12月1週）

暦の上で、大雪を過ぎ冬至へ向かう週。冬の寒さが到来しました。紅葉の残りがきれいでした。（2011年12月2週）

北寄りの風が吹き、晴れると寒い日になりました。富士山や東京スカイツリーがよく見えました。（2011年12月3週）

冬型の気圧配置になり、日本海側でどっさり雪が降りました。気象のパターンどおり、関東は晴れ上がって寒くなりました。北風が強い年末でした。（2011年12月4週）

2017年の記述は次のようです。

霜の下りた朝がありました。車が凍りました。風がない穏やかな日は、日中、過ごしやすい陽気でした。（2017年12月1週）

空気が冷たくなり、青空が透き通るようになりました。木々の葉も残りわずかです。（2017年12月2週）

博物館の水鉢が薄く凍った日がありました。風が強い日は寒さがしみました。（2017年12月3週）

冷たい風が吹く日が増えました。博物館がある長田谷津には北風が入らないので、案外過ごしやすい日が多くありました。（2017年12月4週）

大晦日に東京で初雪が降り話題になりました。船橋でも雪がちらついたのを確認しました。（2017年12月5週）

2022年の12月は寒く、昨年（2023年）はあたたかでした。2022年の記述です。

2日続けて、朝、霜が降りました。陽射しがない日は、身に染みる寒さになりました。（2022年12月1週）

霜が降り、霜柱が立ちました。去年は花壇のネモフィラがやられたので、藁を敷いてみました。（2022年12月2週）

日本海側を中心に記録的な大雪になりました。高知県でも積雪の被害が出ました。市川市域には、冷たい空気が吹き込みました。（2022年12月3週）

前週に続き、冷たい空気が流れ込みました。冷たい風が来ない場所は、日中は暖かでした。（2022年12月4週）

2023年の記述はこうです。

最高気温が摂氏15度前後の日が複数あり、18度まで上がった日もありました（船橋アメダス）。去年の12月は、寒いことの記述ばかりでした。（2023年12月1週）

暖かい日が続き、異常な師走になりました。強い風と雨の夜があり、色づいた葉っぱがどっさり落ちました。（2023年12月2週）

冬らしい寒さの日がありました。北風が身に沁みました。ただ、12月下旬にもかかわらず「真冬並み」という形容詞が使われること自体、暖冬の証です。（2023年12月3週）

最高気温が摂氏10度を超す日が多く、最低気温も0度を切ったのは2日だけでした（船橋アメダス）。暖かい冬に不安がつのります。（2023年12月4週）

肌感覚の1月

1月の関東は、北風が吹くカラカラ天気が基本です。その分、雪が降ると大騒ぎになります。

カラカラ天気が続いて、船橋アメダスでは昨年の12月24日から新年の1月11日まで、19日間、無降水でした。東京も同じで、これは2005年12月13日から31日までの記録と同じで歴代6位、平成では1998年12月25日から1999年1月14日の21日（歴代2位）につぐ記録となりました。（2019年1月1週）

1998年の東京のカラカラ記録の前後の日は、雨は降ったものの降水量としては0ミリしかなく、実際のカラカラ天気はもっと続いています。船橋アメダスでは48日間、雨が降りませんでした。

24日から26日朝にかけて、ようやくまともな雨が降りました。12月7日以来、48日ぶりのちゃんとした雨でした。（1999年1月4週）
※24日は誤記で、正しくは25日です。48日ぶりは49日ぶりが正しい言葉遣いですね。

雪は、大雪になるのは2月の方が多い印象ですが、1月の雪も定番です。かつては、共通一次試験の時は東京では必ず雪が降ると言われていました。

1月21日未明からまる1日、雪が降りました。市内でも10センチ以上積もった場所もあり、久しぶりの大雪でした。（2006年1月3週）

16日朝に強い降雪があり、雪化粧しました。鎌ケ谷スタジアムは大型新人目当てに雪の中大勢のファンがつめかけ、繰り返しニュースで取り上げられました。（2011年1月3週）

週のはじめ、14日に大雪になりました。朝は雨だったのに昼前から雪になり、夕方には数センチの積雪で交通が大混乱しました。（2013年1月2週）

18日は首都圏でも降雪・積雪となり、都内では交通が混乱しました。市内は雪ではなく雨で、強い風と大雨で台風みたいになりました。（2016年1月3週）

2013年の雪は、朝が雨だったことからノーマルタイヤの車が普通に動き、日没後はあっという間に雪が積もり、立ち往生した車があちこちで止まってしまいました。

寒かった2022年12月に続き、2023年1月も寒い月でした。

朝は氷点下の日が続きました。今朝は凍っていないか、朝、水道の蛇口をひねるのがドキドキでした。（2023年1月4週）

花を透明にして観る＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ツ ユ ク サ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしまいますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしまいますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。

ツユクサの花

・ツユクサの花は、二枚貝のような特別な葉（苞葉〈ほうよう〉）の間から、次々に出てきて咲く。
・花は 1 日でしぼんでしまう。写真では苞葉の中に、もうひとつ、つぼみが見える。
・花弁は 3 枚だが、目立つのは上方に並んで開く大きな 2 枚。これが青い花びら。
・雄しべは 6 本で、そのうちの 2 本は長く伸びて、先端に花粉を入れた葯（やく）がある。
・残り 4 本の雄しべは短く、葯も変形して分かれた形をしている。
・雌しべは長く、写真では白く先端が巻いて写っている。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から

一押しのとりたちをエピソードと共に紹介します。

ヤマシギ

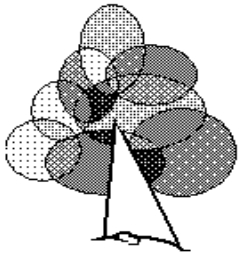
ヤマシギはシギの仲間では珍しく、森林環境で見ることができます。林内は主に昼間の生息場で、夜間は農耕地や河川敷など開けた場所で見ることができます。

長田谷津では 10 月下旬から３月に観察することができます。観察難易度はとても高く、姿を見ることはめったにありません。地上でじっとしていると、こげ茶色の羽毛が落ち葉に紛れて見つからないのです。稀に、斜面林下の湿地で餌を探している姿を見かけることがあります。そんなシーンに出くわしたら幸運です。ヤマシギとの出会いで一番多いシチュエーションは、斜面林の普段、人が立ち入らない場所で調査をしていると、バタバタと飛び立たれることです。飛び立たれてから存在に気が付きます。目と鼻の先から、飛び立つこともあり、ヤマシギの林床に溶け込む能力の高さに驚かされます。

昼間から園路のすぐ近くで餌を探していたヤマシギ
（2011 年 2 月 1 日　長田谷津）

飛び立ったヤマシギが襲われた

2022 年 10 月 26 日の出来事です。もみじ山を歩いていると、すぐ目の前からヤマシギが飛び立ちました。気が付かなかったな～と思いながら、飛び立たったヤマシギを目で追っていると、背後から大きな鳥が追跡をはじめました。なんとオオタカです。すぐ近くにオオタカもいたようです。ヤマシギはオオタカを振り切るように、木の間をスーと飛び、オオタカもその後を追い、見えなくなりました。飛ぶ速度はヤマシギの方が早く見えました。私が引き起こしたことで、ヤマシギには申し訳ないですが、林の中の鳥たちの生態を垣間見ることができました。オオタカが獲物を解体して食べる場所で、しばしばヤマシギの羽毛が散乱していることがあります。オオタカと同じような環境にいるヤマシギは狙われることが多いのかもしれません。



くすのきのあるバス通りから No.157

キジバトの巣がありました

庭のネムノキの剪定をしました。木の中心の、枝分かれが始まる所に、細い枯れ枝が、沢山集まっていました。「キジバトの巣ですね」と自然博の方。以前、庭に、キジバトの卵の殻が落ちていました。「ヒナが孵ると、親鳥が殻をゴミとして他所に捨てます」と。では、ここで子育てをしていたのかも…。夏の間、ネムノキの葉が茂っているとき、キジバトが「ズボッ」「ガサッ」と飛び込むのを、娘が何回か目撃したそうです。私もバス通りの街路樹のクスノキに「ズボッ」とキジバトが入るのを見ました。帰宅途中の薄暗がりだったので、何をしているのかわかりませんでした。「キジバトは枝の茂っているところで寝ます」とのこと。

以前住んでいた家の、庭の藤棚で、キジバトが巣をつくり、子育てしているようでした。藤棚は、路地に面していて、抜け道なので、朝夕多くの歩行者が通りました。今の庭のネムノキも、朝夕の行き来、出入りで人の話し声が近くに聞こえるところです。

近所に、毎年、戸袋で子育てをするムクドリがいます。親鳥が巣に戻ると、数羽のヒナは競争で大きな声で鳴きます。雨樋にスズメの巣があったらしく、ヒナが雨どいを歩いたり、親を呼ぶ声が賑やかだったりします。商店街のひさしに巣をつくったツバメも、ヒナはよく鳴いていました。小さいころ住んでいた、家の屋根裏に、ドバトが巣をつくって、両親が親バトの鳴き声と歩く音が気になり、金網で入れないようにしました。物静かなキジバトが、ネムノキで寝起きして、子育てをしていたかもしれないのが、身近に感じられ、少しうれしいです。

(M.M.)

No.59

展示室
飼育生物の話題

隠れる魚の展示

物陰に隠れる魚がいます。いま飼育展示をしている中では、ニホンウナギ、トサカギンポ、シマハゼ類です。金魚のようにいつも泳いでくれればいいのですが、これらの魚のためには隠れる場所が必要です。隠れさせながら、少しでもいいからお客さんにも見えるようにしなければなりません。ウナギの幼魚はパイプに入り（写真）、トサカギンポはカキ殻の下が居場所になりました。シマハゼの一種はサザエの殻の中にヤドカリのように潜り込んでいます。殻は2つあり、どちらに居るかは気まぐれです。

わたしの観察ノート

◆長田谷津より

・カラスウリの葉の裏にトリノフンダマシがいました(9/10)。昼間は葉の裏に隠れていることが多いようです。
　　稲村優一(自然博物館)

・夕方、ヒグラシの声が聞こえました(9/15)。前日にも鳴いていました。日中は、ツクツクボウシが鳴いていました。

・ツルマメが大群落をつくる脇で、ヤブマメがひっそりと咲いていました(9/30)。ピンク色の花のツルマメに対して、ヤブマメの花は青色です。ひっそり咲く様が、味わい深いです。
　以上　金子謙一(自然博物館)

・今年生まれの小さなヒバカリを見つけました(10/3)。本当に小さくて、目を離すとすぐに見失ってしまいました。
　　稲村優一

・今秋は園路沿いにヤノネグサがたくさん咲きました(10/15)。夏のどのタイミングで園路沿いの草を刈るかで、秋のメンバーが毎年変わって楽しいです。
　　金子謙一

・斜面林からキビタキの鳴き声と、嘴をカチカチと鳴らす特徴的な音が聞こえてきました(10/17)。

・長田谷津のあちこちでアオジの声がしました(10/31)。今シーズンも長田谷津にやってきたようです。

◆大町動物園内より

・葉がなくなったホトトギスに、ルリタテハの蛹がついていました(9/5)。食草のホトトギスでそのまま蛹になったようです。

・ヒイラギナンテン類の黄色い花にオオスズメバチが集まっていました(10/11)。花の蜜や花粉を集めているようです。何匹もひっきりなしに来ていました。
　以上　稲村優一

◆菅野より

・町なかにあるソテツに、クロマダラソテツシジミが止まっていました(10/24)。ソテツの葉の根元に20匹いて、さらにまわりで10匹以上が飛んだり休んだりしていました。ソテツの葉には食べられた跡がありました。秋の柔らかな日差しを浴びて日光浴をするクロマダラソテツシジミの青い翅は美しく、逆にソテツ目線では食べられた葉が痛々しい、という状況でした。

◆坂川旧河口より

・キンミズヒキがツユクサと混じって咲いていました(9/28)。黄色と青の組み合わせがきれいでした。

◆江戸川放水路より

・江戸川放水路の最奥部、トビハゼが生息する干潟に20羽ほどのミヤコドリの群れが来ていました(10/10)。少し潮が引いた干潟で、しきりにくちばしを泥に差し込んでいました。大きなカニを引きずり出すような光景は無く、小さな何かをついばんでいるように見えました。
　以上　金子謙一

記録的な酷暑の夏は9月末頃まで続きました。10月は、蒸しむしとした暑い日があったり、急に涼しくなったり、秋晴れのさわやかな日もありました。前線の影響で、雨はよく降りました。

ホームページをご利用ください

自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入れていただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。

ホームページの内容
- ご利用案内
- 展示紹介、詳しい解説
- 行事案内
- 自然観察の記録、オリジナル動画
- 博物館だより、出版物のご案内

《行事のご案内》

長田谷津は、
大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

	長田谷津散策会		湿地環境整備	
12月	14日	土曜日	22日	日曜日
1月	19日	日曜日	26日	日曜日
2月	15日	土曜日	23日	日曜日
3月	16日	日曜日	23日	日曜日

○長田谷津散策会(申し込み不要・荒天中止)

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前　　午前10時
解散：集合と同じ場所で　午前11時30分

○湿地の環境整備をお手伝いしてくださいませんか(要問合せ・荒天中止)

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。
たとえば……湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、水路の整備、など

集合：観賞植物園　　午前10時
解散：集合と同じ場所で　正午

初参加の方は・・・お電話で博物館までお問合せください。
湿地の中に入る作業もありますので作業内容や身支度などについてご説明します。

＊＊＊年末年始の開館日＊＊＊
●年末は27日まで
年始は３日より　開館いたします。

＊＊＊　臨 時 休 館　＊＊＊
展示室整備のための臨時休館です
令和７年２月18日(火)～21日(金)
尚、動物園、自然観察園は開園いたします

第37巻　第５号　（通巻第215号）
令和６年12月１日　発行
編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会生涯学習部）
〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477